100年の技術と信頼を明日へ

KOEI SINCE 1917

2022年度第2四半期
決 算 説 明 会

２０２２年１１月７日

広 栄 化 学 株 式 会 社

代表取締役社長　西本 麗

目　次

100年の技術と信頼を明日へ

- １.会社概要 …… 2
- ２.2022年度第2四半期決算概要 …… 7
- ３.2022年度通期業績見通し …… 14
- ４.中期経営計画進捗・トピックス …… 18
- ５.配当政策 …… 37

目　次

100年の技術と信頼を明日へ

KOEI SINCE 1917

◆ **1.会社概要** …… **2**

2.2022年度第2四半期決算概要 …… 7

3.2022年度通期業績見通し …… 14

4.中期経営計画進捗・トピックス …… 18

5.配当政策 …… 37

１．会社概要

100年の技術と信頼を明日へ

KOEI SINCE 1917

（１）会社概要

①設立　　１９１７年６月１７日

②資本金　　２，３４３百万円

③社員数　　４０８名（2022年9月末）

④事業所

東京本社:
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉工場･千葉研究所：
千葉県袖ケ浦市北袖25番地

ベルギー：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）

千葉工場･千葉研究所

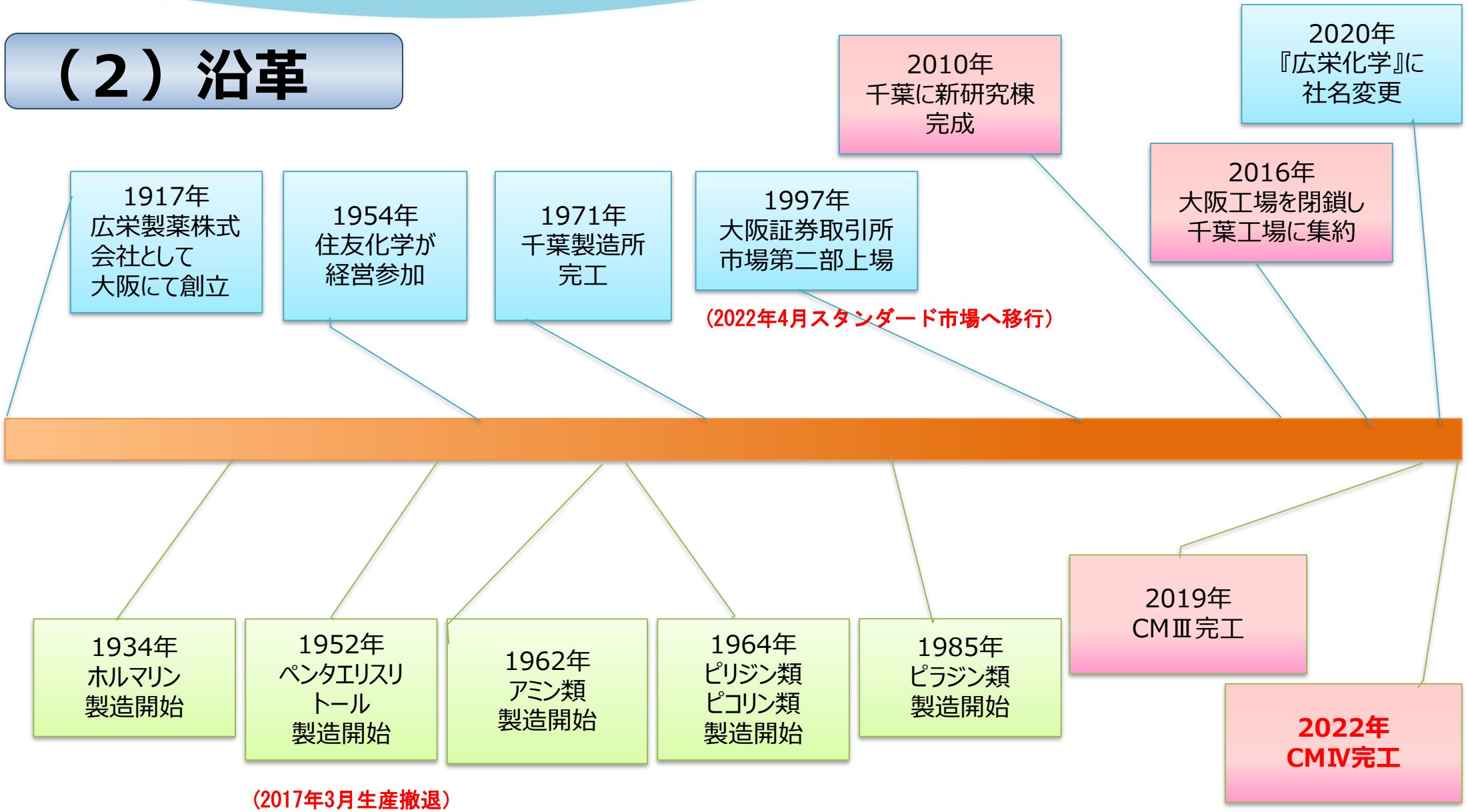
東京本社

1．会社概要

100年の技術と信頼を明日へ

KOEI SINCE 1917

（2）沿革



1．会社概要

（3）事業内容　①基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー

ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO_2吸収材等

数十種類の特殊アミン製造
少量多品種対応

ホルマリン

主な用途

接着剤・塗料・樹脂・酸化
防止剤等

多価アルコール類

主な用途

建造物・自動車用塗料
インキ・コーティング
接着剤・潤滑油等

**2022年4月をもって
販売代理店契約終了**

1．会社概要

（3）事業内容　②カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒であるメタロセン触媒に代表される有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素条件を組み合わせてプロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

（3）事業内容　③機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等

ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（ＣＭⅠ、ＣＭⅡ、ＣＭⅢ）で生産
２０２２年１０月に、新たなマルチプラント４系列目（ＣＭⅣ）が稼働。

目　次

100年の技術と信頼を明日へ

1.会社概要 …… 2

◆ **2.2022年度第2四半期決算概要…… 7**

3.2022年度通期業績見通し …… 14

4.中期経営計画進捗・トピックス …… 18

5.配当政策 …… 37

2．2022年度第2四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ

（1）決算ハイライト

(単位：百万円)

	２０２２年度 ２Q実績	２０２１年度 ２Q実績	増 減 (前年同期比)	２０２２年度 (2Q予想　5/12)
売　上　高	9,006	7,825	1,181	9,400
営業利益	984	327	657	700
経常利益	1,016	457	558	600
四半期純利益	757	475	281	450
1株当たり利益	154.88円	97.26円	57.62円	92.00円

2．2022年度第2四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ

（2）売上高 … 製品グループ別【前年同期比】

（単位：百万円）

	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増 減	増減の主な内訳
医農薬化学品	3,885	2,714	1,171	腎疾患薬等関連 （↗） 農薬関連 （↗） 抗凝固薬中間体 （↘）
機能性化学品	4,013	3,617	396	触媒関連 （↗） 電子材料関連 （↗） イオン液体 （↘）
そ の 他	1,107	1,493	△386	工業薬品他 （↘）
合　　計	9,006	7,825	1,181	（売価差+1,070、数量差＋111）

2．2022年度第2四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ

（3）売上高 … 輸出地域別【前年同期比】

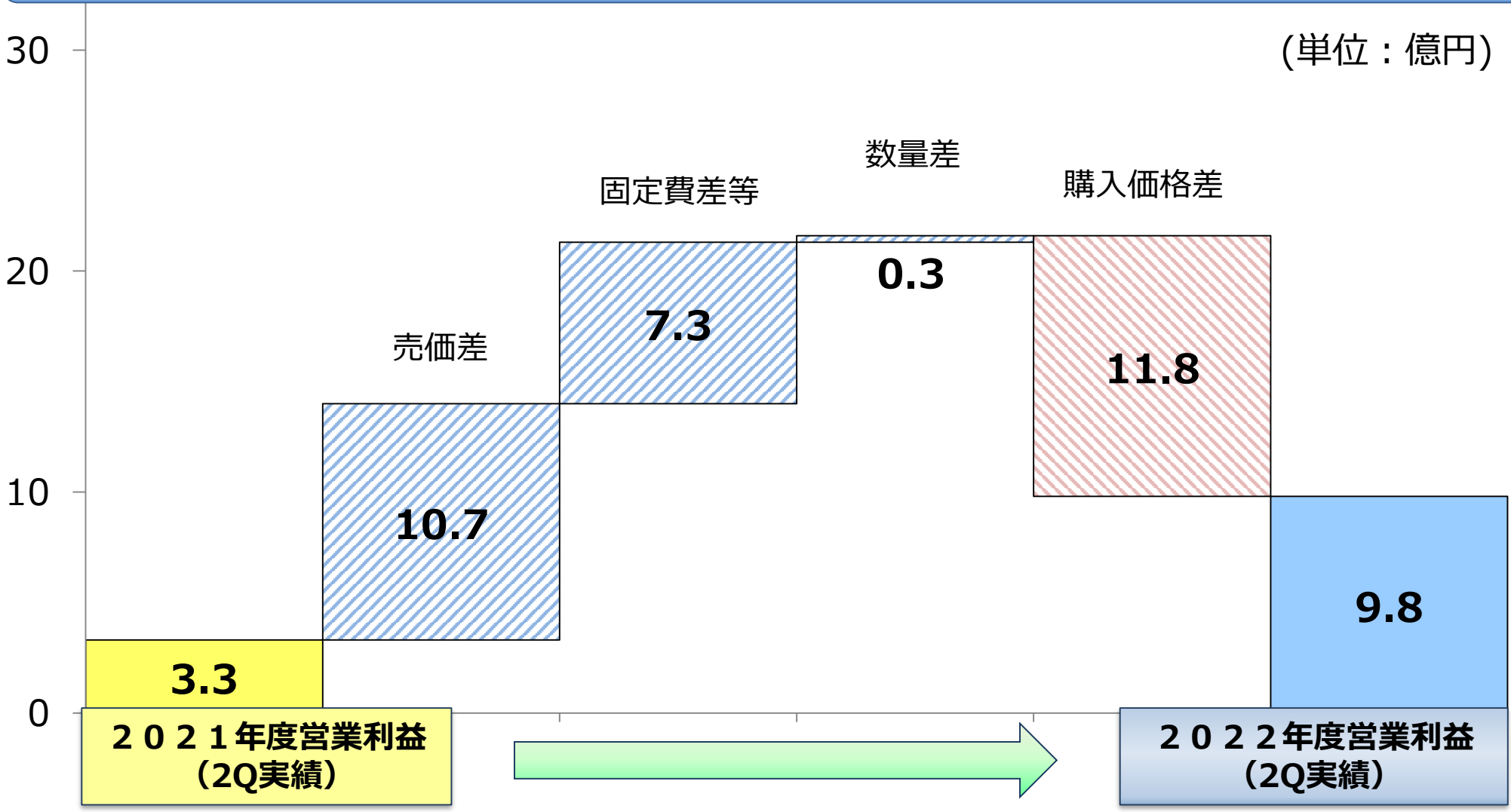
（単位：百万円）

	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増 減	増減の主な内訳
ア　ジ　ア	2,718	2,467	250	農薬関連　（↗）
北　　米	969	636	332	触媒関連　（↗）
欧　　州	1,651	1,064	587	腎疾患薬等関連　（↗）
そ　の　他	0	0	△0	
輸 出 合 計	5,340	4,169	1,170	（ 円安によるﾌﾟﾗｽ影響＋538 ）
為替レート (円/米ドル)	(134.49)	(109.74)	(24.75)	
輸出売上比率	59.3%	53.3%	+6.0%	

2．2022年度第2四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ

（4）営業利益分析【前年同期比】



2．2022年度第2四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ

（6）貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2022年3月末)	(2022年9月末)	増　減	貸方科目	(2022年3月末)	(2022年9月末)	増　減
[資産の部]	３４７．１	４１５．７	６８．６	[負債の部]	１２７．７	１９２．０	６４．３
流動資産	１２８．８	１６６．３	３７．５	流動負債	６０．３	１０７．８	４７．５
固定資産	２１８．３	２４９．４	３１．１	固定負債	６７．４	８４．２	１６．８
				[純資産の部]	２１９．４	２２３．７	４．３
合　計	３４７．１	４１５．７	６８．６	合　計	３４７．１	４１５．７	６８．６

●主な増減要因（資産）

棚卸資産	＋２７億円
ＣＭⅣ設備投資	＋３５億円

●主な増減要因（負債）

借入金	＋　２４億円
買掛金	＋　２３億円
設備未払金	＋　１７億円

2．2022年度第2四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ

（7）キャッシュ・フロー【前年同期比】

（単位：億円）

	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減	増減の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	0.3	18.4	△18.2	棚卸資産等増加
投資キャッシュ・フロー	△23.4	△36.2	12.9	
フリー・キャッシュ・フロー	**△23.1**	**△17.8**	**△5.3**	
財務キャッシュ・フロー	21.5	21.1	0.5	
現金等同等物増減	△1.0	3.3	△4.3	
四半期末現預金残高	4.8	5.9	△1.1	
四半期末借入金残高	**76.5**	**52.5**	**24.0**	

目　次

100年の技術と信頼を明日へ

１.会社概要 …… 2
２.2022年度第2四半期決算概要 …… 7
◆ **３.2022年度通期業績見通し …… 14**
４.中期経営計画進捗・トピックス …… 18
５.配当政策 …… 37

３．２０２２年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ
KOEI SINCE 1917

（１）２０２２年度通期業績予想【概要】

2022年5月12日公表予想から変更

(単位：百万円)

	2022年度 (今回予想)	2022年度 (5/12予想)	増 減 (前回予想差)	2021年度 実 績	2022年度 中期計画
売 上 高	19,500	19,500	-	17,296	18,500
営業利益	1,300	1,100	200	508	1,300
経常利益	1,300	950	350	802	
当期純利益	1,000	820	180	940	1,000
1株当たり利益	204.45円	167.65円	36.80円	192.32円	
1株当たり配当金	100円	100円	–	100円	

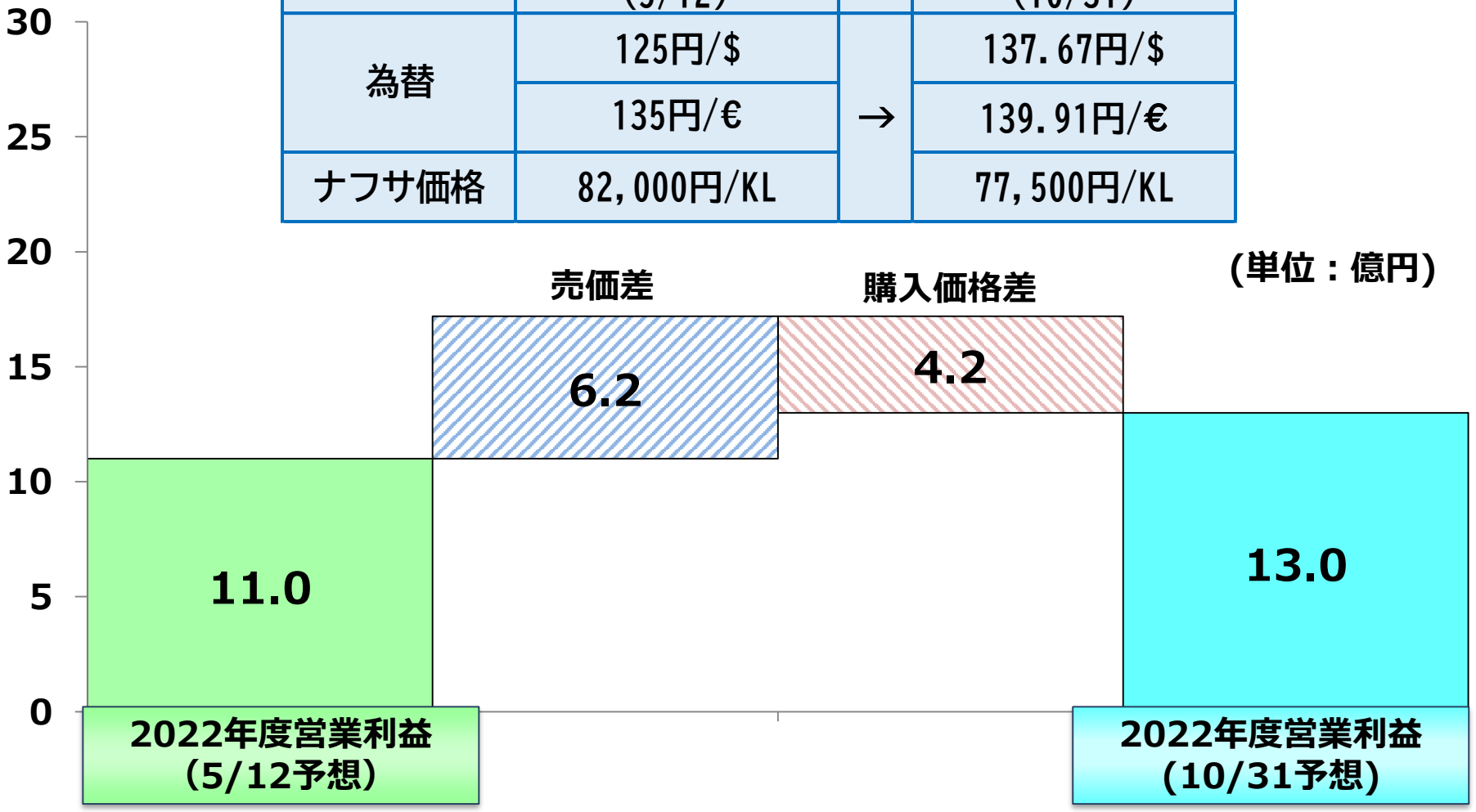
3．２０２２年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ

（２）前提条件・営業利益分析【当初予想比】

前提条件	2022年度通期予想 (5/12)		2022年度通期予想 (10/31)
為替	125円/$	→	137.67円/$
	135円/€		139.91円/€
ナフサ価格	82,000円/KL		77,500円/KL

(単位：億円)



３．２０２２年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ

（３）２０２２年度業績進捗状況

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
第2四半期実績	9,006	984	1,016	757
２Ｑ公表予想(5/12)	9,400	700	600	450
達成率 (対5/12 2Q公表予想)	95.8%	140.7%	169.4%	168.3%
年間公表予想(10/31)	19,500	1,300	1,300	1,000
年間公表予想(5/12)	19,500	1,100	950	820

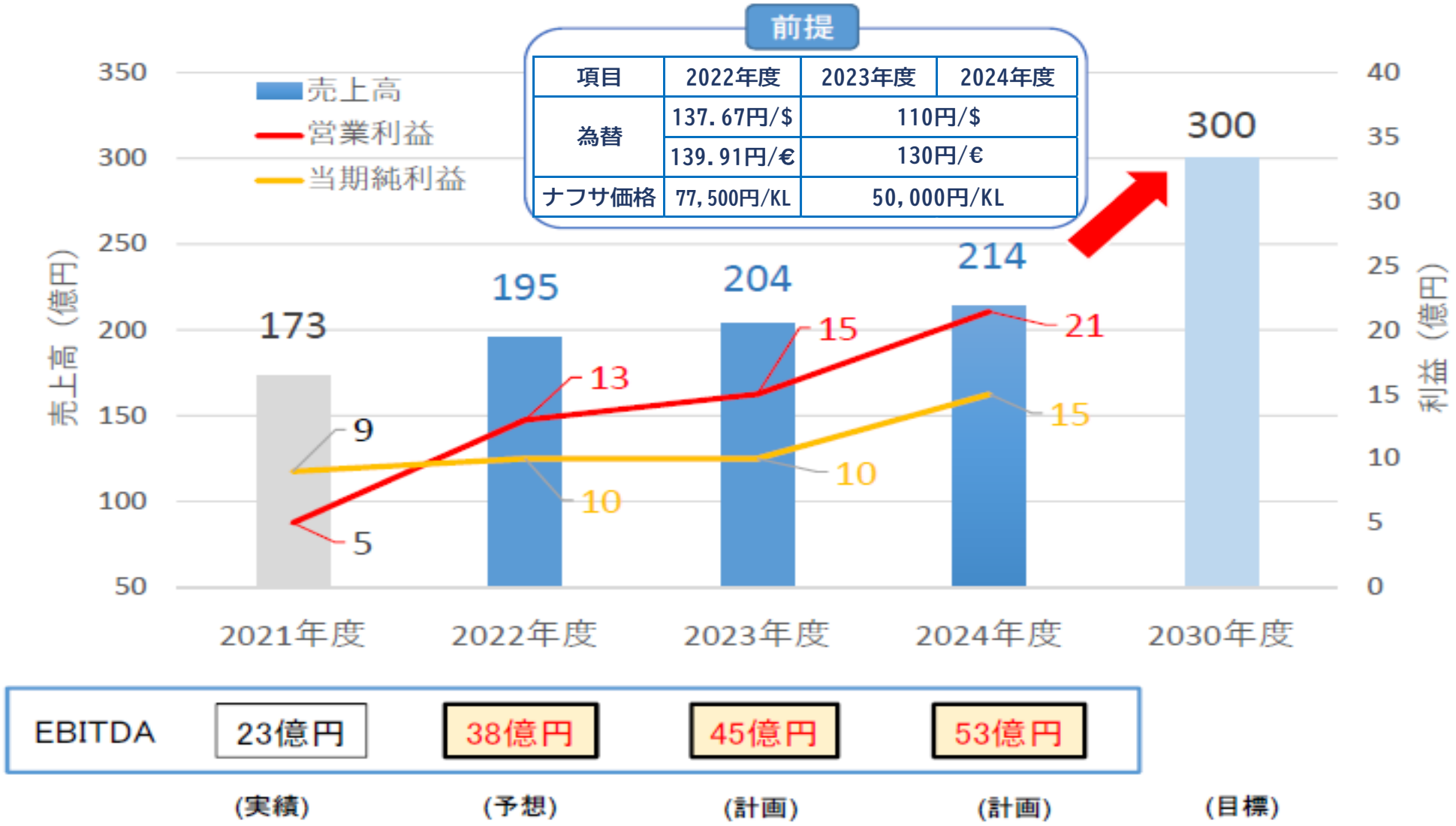
目　次

100年の技術と信頼を明日へ

1.会社概要 …… 2
2.2022年度第2四半期決算概要 …… 7
3.2022年度通期業績見通し …… 14
◆ **4.中期経営計画進捗・トピックス …… 18**
5.配当政策 …… 37

4．中期経営計画進捗

（1） 業績計画（2022年度公表ベース）

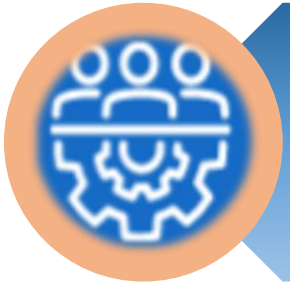


4．中期経営計画進捗

（2）基本方針

1）事業成長戦略加速

2）経営基盤強化



3）人材育成強化･加速

4.（2）-1）事業成長戦略加速

①基盤製品の競争力強化 / 高付加価値化

- アミン類・ピリジン類の拡販及び新製品の早期商業化
- 新規用途開発加速（CO_2吸収用途等）
- 他社との事業提携による事業拡大策の追求
- 抜本的合理化及び生産性向上の追求により競争力強化

②機能製品・新規事業拡大

- CMⅣプラントの円滑な立上げ（2022年秋稼働予定）
- イオン液体の用途探索
- ウレタン樹脂低温硬化触媒の早期商業化、用途開発加速
- 有機金属触媒事業及び医農薬中間体事業の拡大
- 住友化学グループとの連携強化による新製品開発加速
- 新規分野探索（光学・電子・電池材料、環境負荷低減分野等）
- 既存技術×新技術融合により新ビジネスモデル構築

③事業ポートフォリオの高度化

- 採算性・戦略性を勘案した製品プライオリティの見直し、自社製品のPLCM（プロダクトライフサイクルマネジメント）を徹底し利益最大化を追求

4.（2）-1）事業成長戦略加速

進捗サマリー【事業成長戦略加速】

項目	状況	進捗概要
1)基盤製品の 競争力強化/ 高付加価値化	○	①新規アミン製品（CO_2吸収用途）の開発に着手 ②大阪大学大学院との共同研究による次世代アミン製造触媒（金属ナノ粒子触媒）工業化に目途
2)機能製品 ・新規事業拡大	○～◎	①CMⅣプラント：10/1に稼働開始 ②イオン液体：室温でセルロース溶解するイオン液体開発に成功 ③大型医薬中間体：2023年出荷分まで受注、需要増に向け合理化検討中 ④有機金属触媒：開発品目は順調に進捗。一部前倒し需要あり ⑤住友化学グループとの連携：新製品開発及び数品目の工業化検討中
3)事業ポートフォリオの高度化	○	①気相プラントの将来構想に着手（プラント再編、他社との事業提携含め）

4.（2）-1）事業成長戦略加速

100年の技術と信頼を明日へ

進展① 大阪大学大学院とアミン製造用の金属ナノ粒子触媒の開発及び量産化検討を目的として共同研究を開始

2022.5.23発表

大阪大学大学院基礎工学研究科化学工学領域グリーン化学工学グループ　満留敬人 准教授と、アミン化合物製造用の金属ナノ粒子触媒の開発並びに量産化検討に関して共同研究を開始いたしました。

従来のアミン製造プロセスは過酷な反応条件で実施されることが多く、エネルギー面、安全面で課題があります。

本共同研究を通じ、高活性・高選択性の触媒を開発することで、温和な反応条件で実施でき、安全性が高く、グリーン・サステナブルなアミン製造プロセスへの進化を目指します。

RESEARCH & DEVELOPMENT DIVISION

4.（2）-1）事業成長戦略加速

進展②　CMIVプラント稼働について

２０２２年１０月稼働開始

2022.10.6発表

	既存プラント			新プラント
	CM Ⅰ	CM Ⅱ	CM Ⅲ	**CMIV**
面積 大きさ	1,900㎡ 6階層	3,100㎡ 4-6階層	2,800㎡ 6階層	**4,700㎡ 7階層**
反応器数	11 (1-5㎥)	15 (7-10㎥)	8 (3-10㎥)	**10 (10～20㎥)**
ろ過機 (ろ過乾燥機含む)	6	6	6	**4**
生産数量範囲	10kg～ 数トン	数トン～ 100トン	100kg～ 100トン	**数トン～ 100トン**

・機能性製品（医農薬中間体、有機金属触媒、電子材料関連製品、イオン液体等）の事業拡大
・住友化学グループとのシナジーによる新製品開発加速
・新規事業拡大（ウレタン樹脂低温硬化触媒等）の早期商業化

4.（2）-1）事業成長戦略加速

進展③　セルロース溶解用新規イオン液体の開発

セルロースを温和な条件（室温）で高濃度に溶解可能なイオン液体の開発に成功（当社従来品との比較）

繊維やフィルムへの成形などが容易になり、環境に優しい素材として利用可能です

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
12 つくる責任 つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう

低エネルギーでのセルロース溶解を実現することで、
カーボンニュートラルな資源循環プロセスへ貢献してまいります

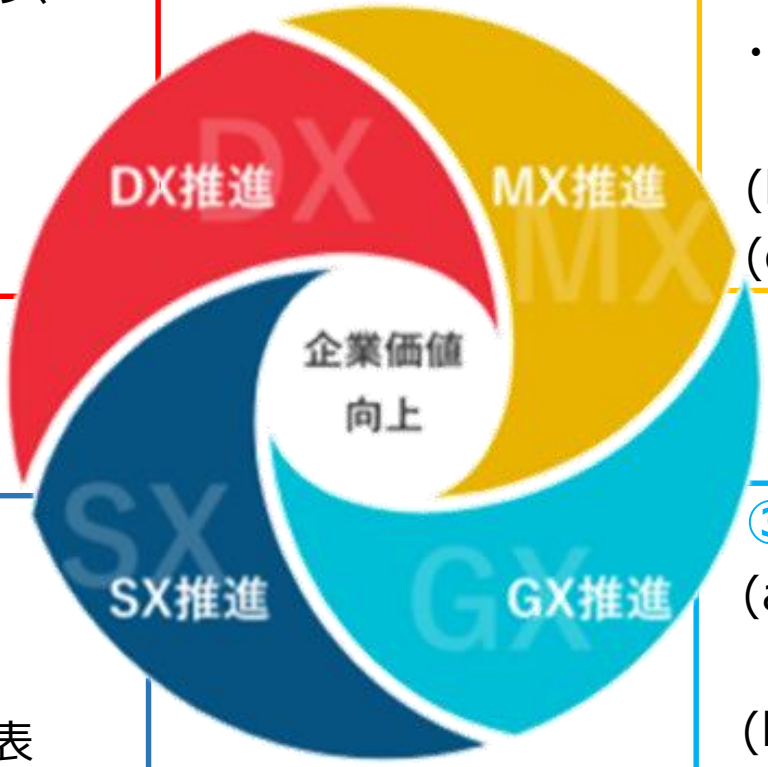
4.（2）-2）経営基盤強化

①デジタル革新

(a)生産性向上、競争力強化
・製造、研究開発、サプライチェーン、
オフィス業務の各領域
(b)DX人材の育成

②マネジメント革新

(a)新経営指標の定着
・投下資本利益率(ROIC)向上
・キャッシュコンバージョンサイクル
(CCC)短縮
(b)広報・IR強化
(c)組織変革



④サステナビリティ革新

(a)企業価値創造に向けた
重要課題のKPI改善
(b)カーボンニュートラルへの工程表
作成及び推進

③ガバナンス革新

(a)新コーポレートガバナンスコード
（CGC）対応
(b)ガバナンス体制の整備強化
・各種委員会の再編及び
運用レベルアップ

部門横断的な取り組みにより企業価値向上を実現

4.（2）-2）経営基盤強化

進捗サマリー【経営基盤強化】

項目	状況	進捗概要
1)デジタル革新	○	①Plant、R&D、SCM、Officeの各領域についてDX推進中 ②株式会社アイデミーが提供するe-ラーニングサービス「Aidemy Business」を導入しDX人材育成中 ③デジタル庁主催の「デジタルの日」（2022/10/2,3）へ賛同
2)マネジメント革新	○	①保有株式売却 ②広栄化学レポート発行(従来のCSRレポートから内容拡充)
3)ガバナンス革新	○	①新コーポレートガバナンスコード (CGC) 対応 ②新コーポレートガバナンス体制で運用実施中 4/1より各種委員会を再編し運用レベルをアップ
4)サステナビリティ革新	○	①太陽光発電システム導入検討（千葉工場駐車場エリア） ②工場グリーン化検討 ③障がい者雇用促進のため千葉県市原市に「さらだぼーる農園」を開園(2022/5/19) ④「ちばSDGsパートナー」に登録(2022/9/15)

4.（2）-2）経営基盤強化

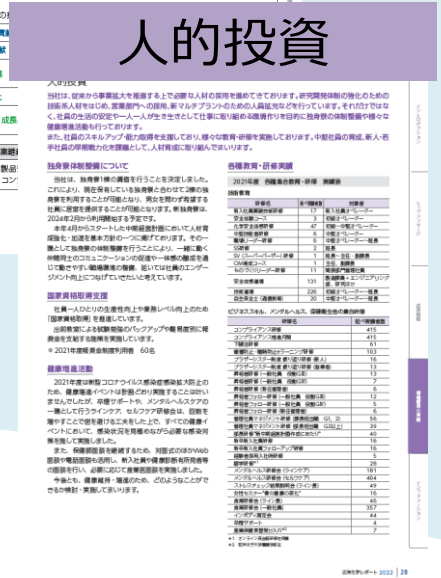
100年の技術と信頼を明日へ
KOEI SINCE 1917

進展①　広栄化学レポートの発行

「ＣＳＲ報告書」⇒「広栄化学レポート」に名称を変更し、充実した内容を掲載　2022.10.3発表

サステナビリティ戦略

人的投資



価値創造プロセス

当社の企業価値向上に向けた様々な取り組みを紹介

当社ウェブサイト　サステナビリティページに掲載
https://www.koeichem.com/company/sustainability.html

4．（2）-2）経営基盤強化

100年の技術と信頼を明日へ
KOEI SINCE 1917

進展②　『さらだぼーる農園』の開園

2022.5.23発表

将来の価値創造に向けた重要課題の一つ
【ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン】

地域の障がい者雇用の更なる促進につながる取組みとして、
『さらだぼーる農園』 を開園

＜**『さらだぼーる農園』**の由来＞
障がい者と健常者、ジェンダーなどの垣根をなくして協力し合いながら働く姿を、多様な野菜が一つの器（ぼーる）のなかで混ざりあって、さらに美味しくなる様子に例えて表しています。

＜概要＞
場所　：千葉県市原市
社員　：３名（障がいのある社員２名
健常者1名）

播種の様子

開園式にて集合写真

4.（2）-3）人材育成強化･加速

①マネジメント強化

(a)マネジメント研修強化
(b)評定者訓練継続
(c)課長層道場新設等

②中堅社員の育成
若手社員の早期戦力化

(a)製造･研究･営業分野の
育成プログラム見直し及び強化

③人事制度見直し

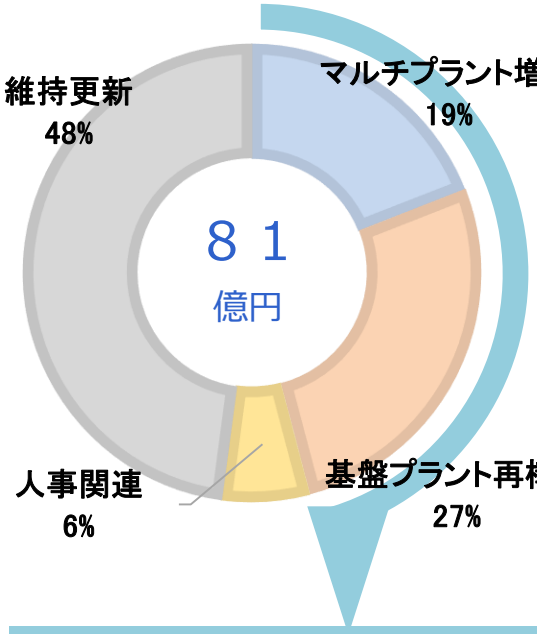
(a)キャリア開発システム新設
(b)デュアルラダー制度新設
(c)チャレンジ目標設定、評価基準の
見直し及び教育

4．中期経営計画進捗

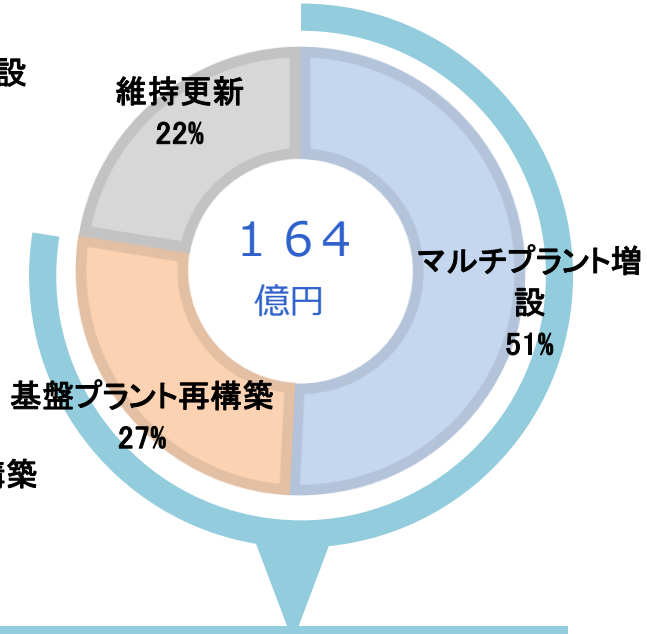
（3）設備投資計画(意思決定ベース)

積極投資

2016年度-2018年度（実績）



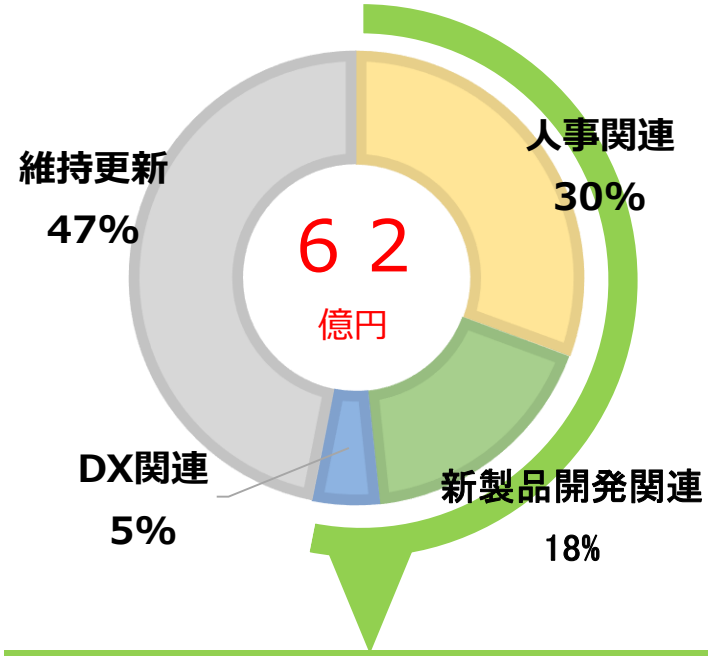
2019年度-2021年度（実績）



事業拡大・競争力強化

厳選投資

2022年度-2024年度（計画）



サステナブル投資拡大

成果実現（投資回収）

4．中期経営計画進捗

（2）-3）進捗サマリー【人材育成強化･加速】

項目	状況	進捗概要
1)マネジメント強化	○	①評定者訓練実施(2022/7,8)
2)中堅社員の育成 若手社員の早期戦力化	△	①OJT強化、グレード別研修の実施等 ②工場オペレター教育に時間を要している
3)人事制度見直し	○	①キャリア開発システム見直し(2022/10/1) ②デュアルラダー制度新設(2022/4/1)

（3）進捗サマリー【設備投資計画】

項目	状況	進捗概要
1)設備投資計画	○	①2022年度進捗率：85%(9月末予想) ◇主な案件：新独身寮賃貸借(４月決議) 研究パイロットプラント(５月決議)

4．（3）設備投資計画進捗

100年の技術と信頼を明日へ
KOEI SINCE 1917

設備投資①　新独身寮賃借について

2022.5.31発表

1．物件概要：鉄筋コンクリート造４階建（2024年1月完成）
　・１階　　：食堂、ホール、浴場、管理人室
　・２～４階：居室54室、ランドリー設備（各階）
2．運用開始：2024年2月～
3．寮 運 営 ：新独身寮を男子寮、現在保有する独身寮（24室）を女子寮とし、男女とも希望者を収容

完成予想図

【目的】

- 遠隔地からの採用の促進
- 部署を超えた一体感の醸成
  相互コミュニケーションの充実
- 社員の定着／離職率低減
- 栄養を考慮した食事提供等による健康実現

→ 従業員満足度・生産性向上 → 中長期的な企業価値向上

4．（3）設備投資計画進捗

設備投資②　研究パイロットプラント（少量試作設備）建設について

2022.6.1発表

主な設備		基数
反応器数	100L(ハステロイ)	1基
	300L(GL)	1基
	300L(SUS)	1基
ろ過乾燥機	0.28m^2	1基
カラムクロマト精製システム		1基
低温反応（-65℃)設備、水添設備、その他付帯設備		

2023年8月稼働予定

- 新製品の製造プロセス確立や既存品の合理化検討加速
- 高付加価値製品（高純度製品等）のキログラムスケールの生産対応
- 研究パイロットプラントとマルチプラント系列とのシームレスな生産体制構築

4.（4）サスティナビリティ活動推進

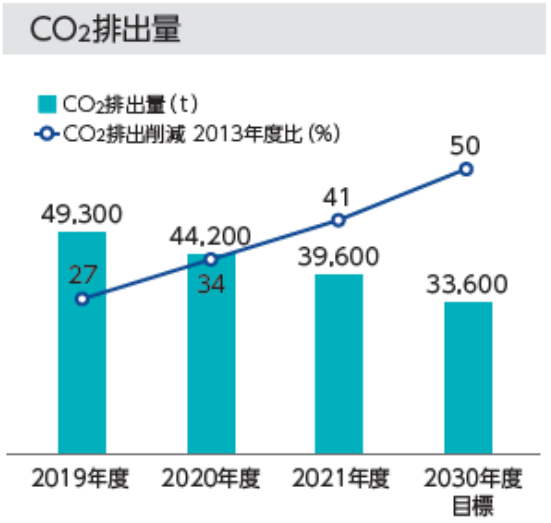
持続可能な価値創出のための重要課題、広栄化学KPI

		広栄化学KPI
社会価値創出に関する重要課題	環境分野への貢献 【気候変動の緩和と適応】	CO_2排出量（Scope 1 + 2） 【目標：2013年度対比50%削減】
	【自然資本の持続可能な利用】	エネルギー消費原単位改善
	食糧分野への貢献	農薬原料・中間体売上高
	ヘルスケア分野への貢献	医薬原料・中間体売上高
	ICT関連分野への貢献	電子材料関連製品売上高
将来の価値創造に向けた重要課題	イノベーションの推進	新製品売上比率 合理化金額の累積
	DXによる競争力強化	デジタル成熟度判定
	人材： ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン、育成・成長、健康	新卒採用に占める女性社員割合 【目標：20%以上】
		障がい者雇用率 【目標：2.5%以上】

4.（4）サスティナビリティ活動推進

サステナビリティ進捗状況

KPI項目	2020年度実績	2021年度実績	推移
CO_2排出量（Scope 1 + 2）	34%削減	41%削減	↗
エネルギー消費原単位改善	0.5%	0.1%	↘
農薬原料・中間体売上高	19億円	20億円	↗
医薬原料・中間体売上高	44億円	44億円	→
電子材料関連製品売上高	48億円	52億円	↗
新製品売上比率	7.8%	7.5%	↘
合理化金額の累積	4億円	6億円	↗
デジタル成熟度判定	–	1.5	–
新卒採用に占める女性社員割合	25.0%	12.5%	↘
障がい者雇用率	2.2%	2.3%	↗



※新製品定義：上市後5年以内の製品

広栄化学レポートでは、各KPIのデータ推移、TOPICSを掲載。

KPIの改善に向けて、引き続き取組みを推進する。

目　次

100年の技術と信頼を明日へ

KOEI SINCE 1917

1.会社概要 …… 2
2.2022年度第2四半期決算概要 …… 7
3.2022年度通期業績見通し …… 14
4.中期経営計画進捗・トピックス …… 18
◆ **5.配当政策 …… 37**

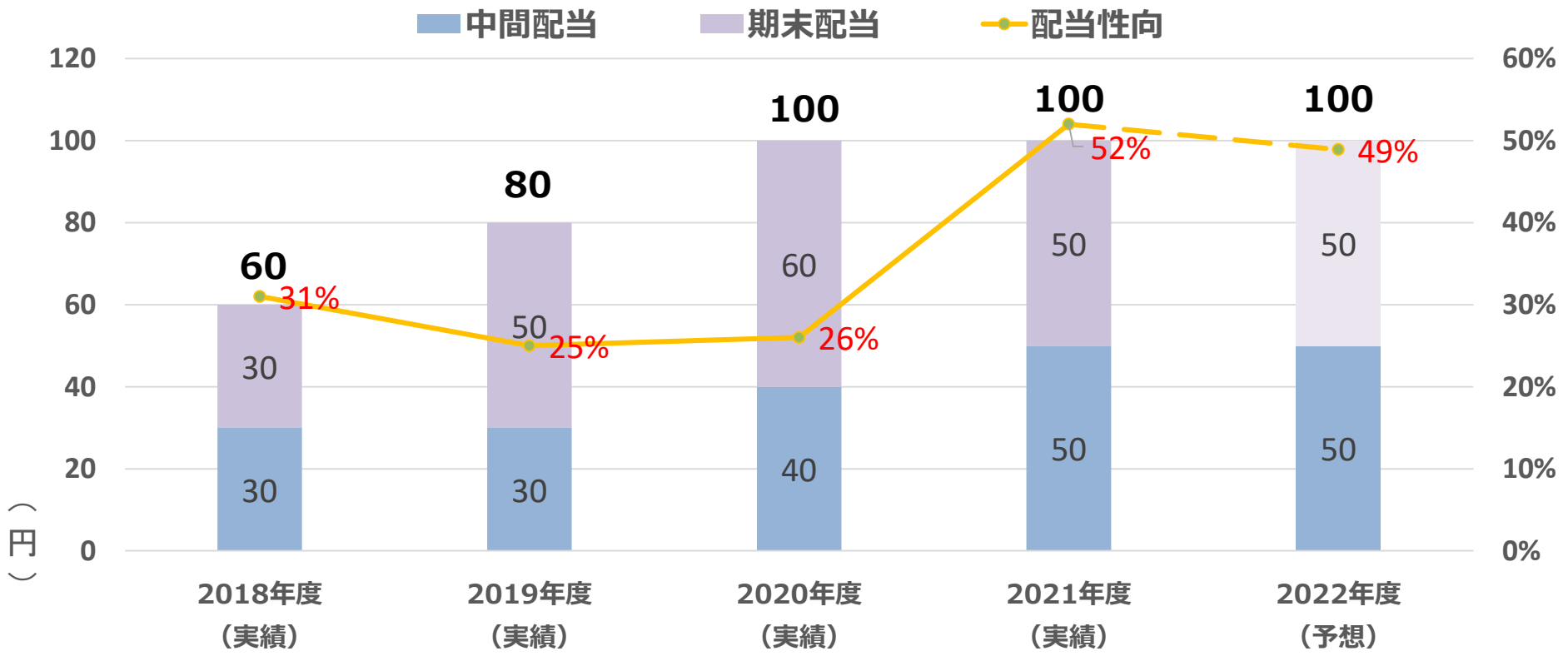
5．配当政策

100年の技術と信頼を明日へ

（１）配当政策

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。
配当性向については、原則５０％を目途に株主還元を実施する方針とする。

（２）配当実績予想



ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】
本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。